

女性のつながりサポート事業【北区】

個別事業費	6,886 千円
交付金額	3,442 千円

地域の実情と課題

新型コロナウイルス感染拡大やコロナ禍等の社会情勢の影響による、配偶者等からの暴力(DV)の増加・深刻化、女性の貧困、無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)による弊害といった課題に対し、必要な支援が行き届いていない。

目的・目標

女性が自らの生き方を自分で選択することのできる地域社会の実現に向け、就労・就学・暮らし等の女性の悩み全般に対応できる相談体制と、個々の悩みに対する個別的支援を継続的に実施できる体制を構築する。そのための取り組みの一つとして、女性のためのLINE相談および必要に応じてアウトリーチ型支援を実施する。

<目標>

LINE相談件数 年間330件、アウトリーチ支援4件

事業の特徴

就学・就労、子育て、介護・看護等により既存の相談事業を利用することが難しかった女性を含め、あらゆる状況の女性たちに対応することができるよう、LINEを用いた相談窓口を開設し、相談を受け付けた。また、LINE相談等でつながった相談者に対し、必要や希望に応じてアウトリーチによる支援体制を構築した。

連携団体

東京都北区女性活躍推進協議会
NPO法人
北区社会福祉協議会
区内教育機関・北区教育委員会
北区子ども家庭支援センター
北区生活福祉課 等

事業の効果

- LINE相談件数年間 202件(目標330件に対する達成率61.2%)
- 継続の相談者も多く心の拠り所として活用されている状況もうかがえた。子育て・仕事・親の介護・自身の健康不安など、複数の問題を同時に抱える世代が夜の隙間時間に相談してくるケースが増加した。
- アウトリーチ件数は0件であったが継続も多くLINE相談で終了する案件がほとんどであった。引き続きLINE相談実施日についてはいつでもアウトリーチ支援を行うことができる体制を維持する。

今後の課題

AIなどの進化に伴い24時間つながるチャットなどにシフトしている可能性も考えられるが対人間であることで情感を持って応答ができることがLINE相談の強みである。様々な悩みを持つ相談者からの相談に文字のみで対応するためには、高いスキルを要する。相談員間や区事務局との情報連携を密に行い、高いサービスを提供できるよう努める。広報手法の多様化。すでに設置している商業施設や学校への追加設置、SNSにおける事業の告知、地域や性別のターゲティングを活用した広告の配信を実施する。

事業の概要

女性のつながりサポート事業



新型コロナウイルス感染拡大やコロナ禍等の社会情勢の影響を受け、孤独や孤立による不安、就労・就学・暮らしに対する困難等を抱える女性を対象としたLINEを用いた相談窓口を開設することにより、SNS上に女性のための居場所を提供するとともに、適切な機関や相談窓口、アウトリーチ支援に接続する体制を構築した。平日・週末の夜間に実施することで、これまで女性相談に繋がっていなかった若年女性からの相談が多く寄せられた。また、隙間時間を活用した学生や育児中の女性からの相談も多く寄せられた。LINE相談者のうち、さらなる支援が必要であると判断した相談者に対し、アウトリーチ支援を実施する体制を構築したが、令和7年度の実施件数は0件であった。

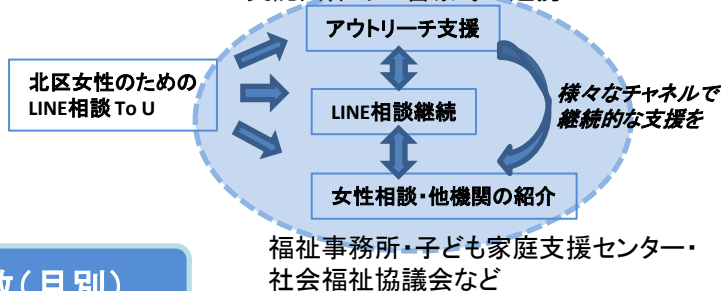
相談実績

- LINE相談友達登録者数 697名
- LINE相談件数 202件

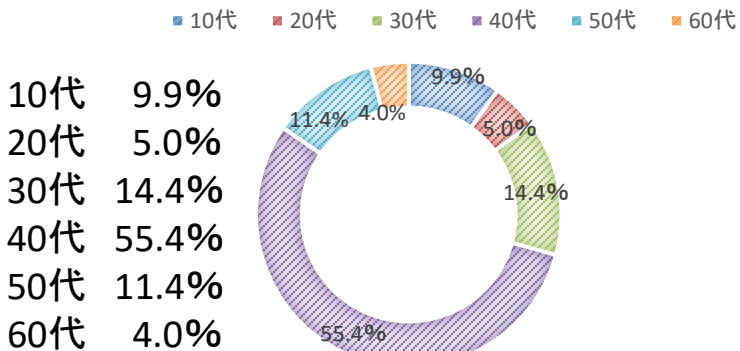
相談案内ステッカー
区関連施設や商業施設の区内トイレ個室に設置



受託団体・区・警察等で連携



相談者の年齢構成



相談件数(月別)

